



巻頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

85

「キノコ好きの異常気象？」

文月 斉 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？
ハロウィンも終わってすっかり秋が深まってきたけど、君の暮らす西の町もだいぶ紅葉が進んでいるんじゃないかな？
いつか君と歩いた全長4kmの銀杏並木は、9月の台風で80本以上の木が折れたり倒れてしまったそうだけど、毎年恒例のイルミネーションによる光のトンネルは無事に開催されるようだね。「ひかりのまち」としてPRしている函館にいることもあって、なんだか妙に親近感があるようになっていたんだけど、少し安心しているよ。
僕の住む函館山の麓では数年前のようにバタバタと大木が倒れるようなことは無かったけど、海に囲まれている分、潮風による塩害がひどく、街路樹などは紅葉する前に半分以上が枯れて落ちてしまった。窓から見える函館山や遠くの山肌は、例年と比べて鮮やかさに欠ける印象だね。
今年の函館は、台風だけでなく局所的な大雨や雷も多く、電が降ったり竜巻が発生したり、季節を問わず暑くなったり寒くなったりと、いつになく変な気候だった。ただ、そんな変な気候が功を奏したのか、今年は秋の味覚の王様、キノコが大豊作。キノコというのは面白いもので、昔は食糧不足になると山に入ってキノコの生えそうな朽木を叩いて回り、キノコの成長を促したそうだよ。実際、2〜3日するとキノコが出てきたそうで、同じような話を埼玉県のシイタケ農家さんに聞いたことがある。電が降るとシイタケが爆発的に生えて、出荷が追いつかなくなるんだってさ。急激に冷たい空気が入ってくることで、電が落ちた時の振動が関係しているのじゃないかって話していたけど、今年の函館近郊の山がまさにそういう条件に似ていたね。しわしわでちよっとグロテスクなオオシヤグマアミガサタケや、メガホンのような大きさのコウタケなど、行く先々で見慣れないキノコに出くわしたよ。
え、そんなにキノコに興味を持っていたかって？ 実は、数年前から函館キノコの会というキノコ好きが集う会に入っているんだ。25年以上の歴史を持つ会なんだけど、何が凄かって会長の石垣充一さんを始め、会員一人ひとりのキノコに対する知識と情熱が凄い。毎月一回、観察会があって、1時間ほど森に入ってキノコのサンプルを集めてくるんだけど、この短時間でよくもまあこれだけの種類のキノコを見つけてくるなあと思う。これだけ同じような姿をしたキノコをそれぞれ見分けることができることに驚くよ。名前に始まり、特徴や似たようなキノコとの違いなどを解説してくれるのだけど、聞けば聞くほど目からウロコならぬ、目からキノコが落ちる思いだよ。半円形や饅頭形に分けられる傘の形や、柄の表面がざらざらしているか、傘の裏のヒダが柄に沿って流れているか、ヒダとヒダを連結する脈があるか、などなど、いやあ、とにかく奥が深い。ちなみに先日、会員さんが各地で採ってきたキノコを使った料理の試食会があって、ヤチヒロヒダタケなんて珍しいキノコの味の奥深さも学んできたよ。
え、自分ばかりずるいって？ まあ、そう怒らないで。ちよつどもい、函館の見晴公園の香雪園で「はこだてもみじフエスタ」が開催されていて、5日から函館キノコの会によるキノコの写真展が行われるんだ。身近で採れる食べられるキノコも紹介されるそうだから、しっかりと勉強してキノコ狩りに行こう。え、食べる分だけ送ってほしいって？ しょうがないなあ、とびきり美味しいキノコを送るとするよ。ただし、笑いが止まらなくなっても知らないけどね。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索